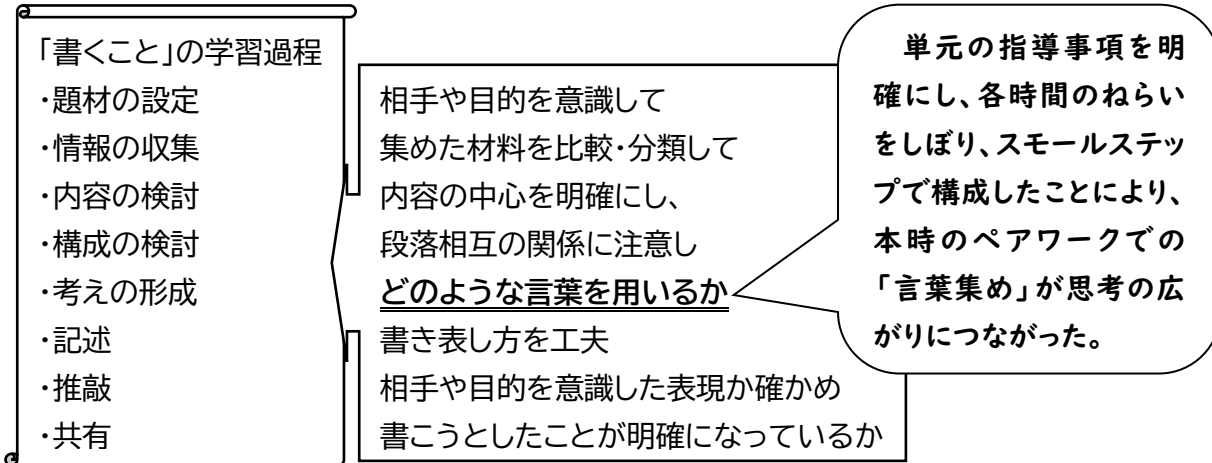
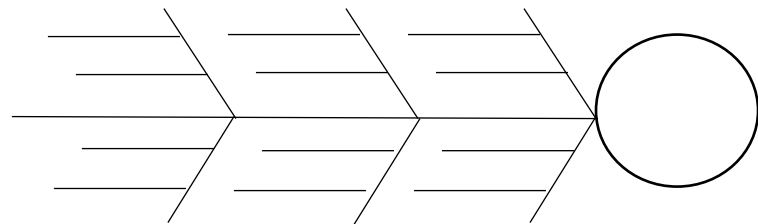


☆各授業のポイント☆

◎国語「書くこと」領域での、豊かな表現力の育成



- カリキュラムマネジメント:主に既習事項との関連付け
- ペアワークでの「質問の技」活用:思考を広げたり、深めたりする質問とは?
- 思考ツールとして「ボーンチャート」の活用:項目での分類、上下で大枠と詳細の分類。



「物語・詩」の創作 ～課題あるある～

思いは膨らむが伝わりにくい文章になる。指導と推敲の繰り返しで意欲低下を招く。

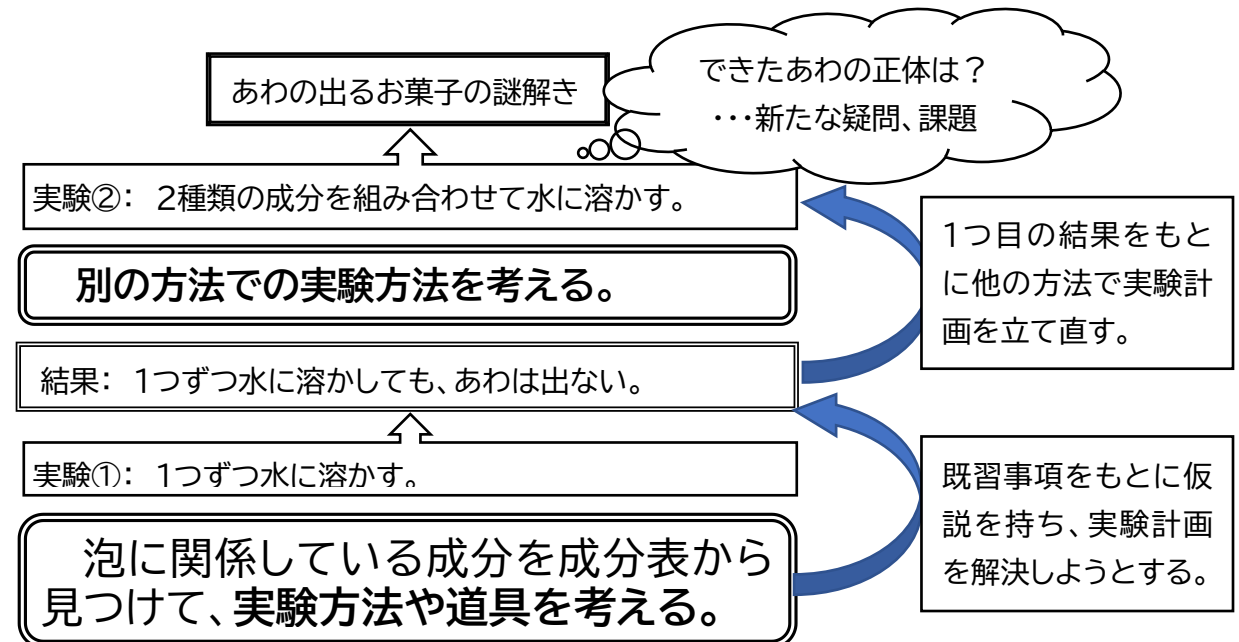
<今回の成果>

考える順序(導入→山場→結末→起承転結)を提示することで、文章の構成(起承転結・段落相互の関係)を意識させることができた。また、質問し合うペアワークによって、発想を膨らませながら読み手に伝わる表現の工夫へと思考を広げることができた。その際、思考ツール(ボーン図)を活用することで、広げた思考を自己内対話で深める材料とすることができ、授業前後の学習の成果を視覚的に確認することもできた。活動の流れの中で全体交流はせず、個→ペア→個で思考を深める場を保障したことが有効だった。

本年度は研究授業も少なく、全員で授業研究を深める場がとても少ないですが、それぞれの立場・学年で素敵な実践がたくさん行われていることと思います。

働き方改革のひとつとしてOJTが挙げられます。普段の授業から互いに交流し学び合いましょう！今回は10年研の先生方の授業から、全員で「共有」し、「だれでも」できること、共通認識にしていきたいことを提案していきます。

◎理科「活用」場面での、未知の問題に対する追究力の育成



実験・体験 ～課題あるある～

与えられた課題を与えられた方法や道具で解決する「知識・技能」は身につくが……

<今回の成果>

つきたい「資質・能力」や「見方・考え方」をもとに、設定した「活用問題」が子どもたちにとって身近で魅力的な問題だった。また、単元前半の既習事項を生かせば、問題解決の方法や必要な道具など解決の見通しが立てられるようになっている。既習事項をもとに見通しを持って解決していく過程そのものを実践できたことで、新たな課題に気づいたり、さらなる興味・関心をもったりして、解決していこうとする「学びをつなぐ」力の育成につながった。特に、一度では解決できない課題に対して方法を再考する場面の設定が有効だった。

どちらの授業も、子どもたちに「どんな資質・能力」をつけたいのか?大切に教科の見方・考え方は何か?をしっかりと持ち、「必然性のある学習課題設定」がなされていました。その上で、課題解決のための単元設計が意図的にスモールステップで生まれ、学年間・単元間の関わりを整理して授業づくりがなされています。

研究主題: 考え、かかわり、学びをつなぐ 力をもった児童の育成
～思考を広げ、深める「かかわり」のしかけの工夫(2年次)～